

大矢沢野田(1)遺跡

発掘調査概報



平成12年度

青森市教育委員会

序

青森市には、国特別史跡三内丸山遺跡や国史跡小牧野遺跡などの縄文時代の遺跡をはじめ、数多くの遺跡が所在しております。これらの遺跡からの情報は、現代に生きる私たちの遠い祖先の暮らしぶりを物語る貴重な財産であり、青森市南部の大矢沢地区に所在する大矢沢野田（１）遺跡もその例外ではありません。

当委員会では、昨年度に引き続き、本遺跡の発掘調査を実施し、本市においてこれまで検出例のない縄文時代前期初頭の住居跡が検出されたほか、当該期の土器が出土しており、本市はもとより県内の縄文時代史を紐解く上で、貴重な資料が発見されました。

本書は今年度行われた調査成果を、市民の方々により理解していただき易いように調査概報としてまとめたものです。本書が本遺跡の理解と、本市の歴史解明の一助となれば幸いと存じます。

最後となりましたが、本書を刊行できましたことは、ひとえに関係各機関・諸氏のご指導、ご助言によるものと深く感謝の意を表する次第であります。

平成 13 年 3 月

青森市教育委員会
教育長 池田 敬

例 言 目 次

1. 本書は青森市教育委員会が平成 12 年度に実施した大矢沢野田（１）遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 遺跡番号は、青森県遺跡台帳番号 01292 である。
3. 本書で報告する遺跡は、青森土木事務所及び青森市道路課の委託を受けて青森市教育委員会が平成 12 年度に発掘調査を実施した箇所についてのものである。
4. 本書は発掘調査の概要報告書であり、本報告については、平成 13 年度に刊行する予定である。
5. 本書の執筆・編集は調査担当者である設楽政健が行った。

序	
例言	
目次	
はじめに	1
大矢沢野田（１）遺跡とは.....	2
縄文時代前期初頭の遺構と遺物	4
縄文時代前期中葉の遺構と遺物	8
縄文時代中期以降の遺構と遺物	12
縄文開進と大矢沢野田（１）遺跡.....	13
まとめ	16

はじめに

大矢沢野田(1)遺跡は、青森市大字大矢沢字野田に所在する縄文時代の遺跡です。

当初、この場所においては遺跡を確認していませんでしたが、平成10年度に青森土木事務所による堤川広域基幹河川改修事業に伴う横内川多目的遊水池建設工事中に、旧石器時代～縄文時代前期の埋没林や縄文時代前期の土器を包含する河川跡が発見されました。そこで同年、青森県教育委員会による発掘調査・範囲確認調査が行われた結果、縄文時代前期初頭～前期中頃を主体とする遺跡であることが判明し、青森県遺跡台帳番号01292に登録されました。

このために、それまで計画されていた青森土木事務所所管の遊水池建設工事予定地及びそれに隣接する青森市建設部道路課所管の市道筒井幸畑団地線特殊改良工事予定地(現工用道路)が遺跡と重複することとなり、当委員会と青森土木事務所、青森市道路課が協議した結果、工事に先立つ発掘調査が必要との結論に至り、平成11年度から実施することになりました。

昨年度は、当委員会が青森土木事務所及び青森市建設部道路課の委託を受け、遊水池築堤工事予定地約2,000m²を対象とした試掘調査、市道筒井幸畑団地線特殊改良事業一種特定事業に先立ち約6,000m²を対象とした発掘調査を行いました。しかし、市道筒井幸畑団地線特殊改良工事予定地の発掘調査区域に相当する工用道路において、遊水池建設に伴う工事車両、現道に隣接する農道に出入りする農耕車の通行が頻繁で、通行止めにしなない限り工用道路を調査することは困難であるという結論に達したことから、道路脇の調査可能な部分を対象としました。調査の結果、縄文時代前期初頭～前期中頃の遺構・遺物が発見されました。

今年度は、昨年度の試掘調査の結果、発掘調査必要となった遊水池築堤工事予定地部分と、昨年度調査できなかった市道筒井幸畑団地線特殊改良工事予定地に相当する工用道路部分を対象として、平成12年8月17日～10月31日までの日程で発掘調査を行いました。

本書では大矢沢野田(1)遺跡の発掘調査成果について、今年度の成果を中心に昨年度の成果を踏まえ、その概要を報告します。



第1図 遺跡位置図

大矢沢野田（１）遺跡とは

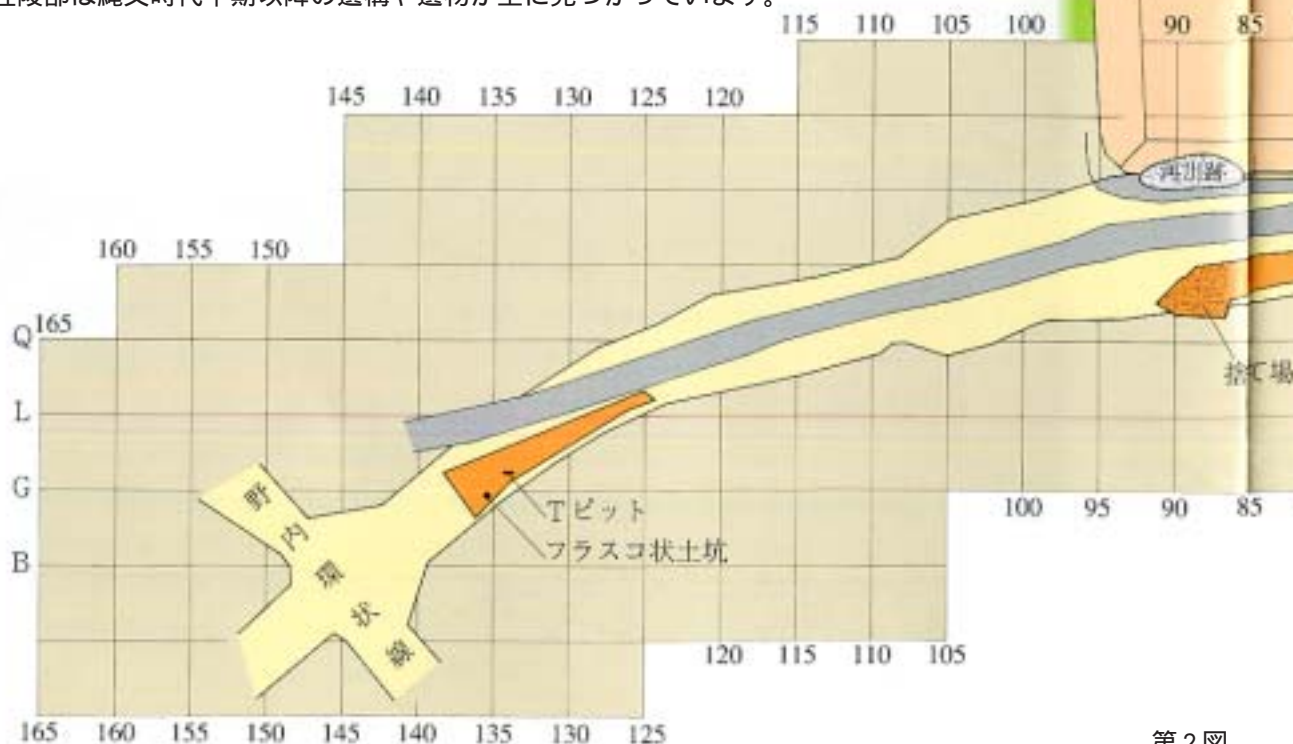
大矢沢野田（１）遺跡は青森市大字大矢沢字野田に所在しています。遺跡は、青森平野とその南部に広がる八甲田山から延びる火山性の丘陵の縁辺部がちょうど接する部分に立地しており、遺跡範囲内は地形的に平野部・丘陵縁辺部・丘陵部に区分することができます。標高は平野部で7～10m、丘陵縁辺部～丘陵部にかけては10～26mになります。遺跡範囲内の平野部は、大半が横内川多目的遊水地建設工事によって掘削され、一部水田が残っているという状況であり、丘陵縁辺部～丘陵部は、宅地・墓地・畑地の造成の影響をかなり受けています。丘陵縁辺部から平野部にかけては、腐食した木や草等の植物遺体が堆積して形成された泥炭層が2m以上堆積しており、過去に湿地であったと考えられます。

平成10年度に青森県教育委員会が実施した範囲確認調査・発掘調査では、平野部において、掘削工事によって露出した河川跡、遊水地北側の未掘削部分の調査が行われ、河川跡からは縄文時代早期前半から前期中葉の土器（主に円筒下層a式土器）が出土し、未掘削部分からは縄文時代前期初頭の土坑5基が検出されています。

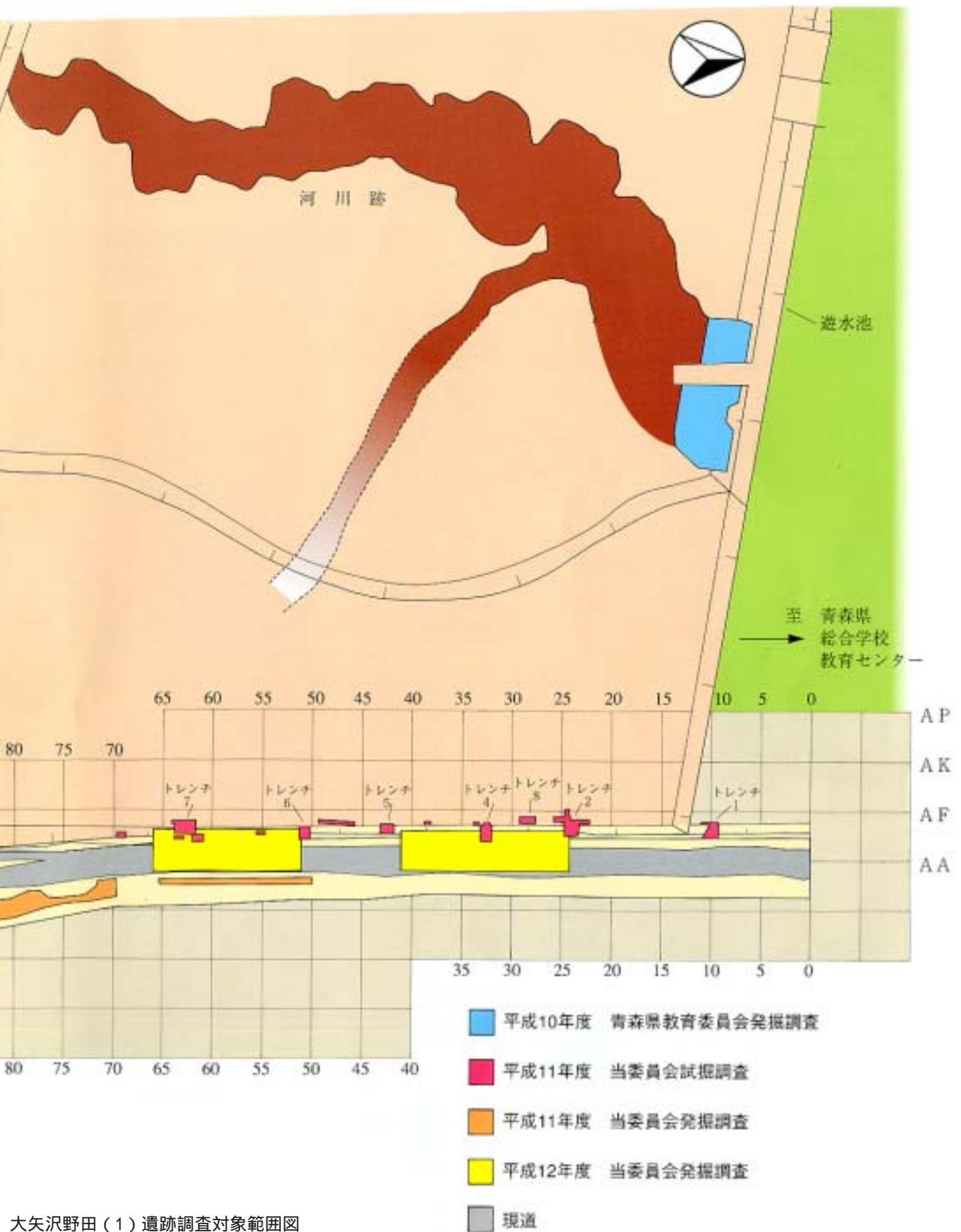
昨年度、当委員会が行った、遺跡範囲内を平野部から丘陵部にかけて南北にはしる工事中の東側部分と、その西側に隣接する遊水地築堤工事予定地部分を対象とした試掘調査・発掘調査では、平野部においては、縄文時代前期初頭の土器、それと同時期と考えられる竪穴式住居跡の一部を検出し、丘陵縁辺部においては縄文時代前期中葉の遺物の捨て場、縄文時代前期中葉の土器・石器を包含する河川跡、丘陵部においては、縄文時代中期末葉～後期初頭のフラスコ状土坑1基、Tピット1基を検出しています。

今年度は、対象区域内のうち、昨年度の試掘調査で前期初頭の竪穴式住居跡の一部を確認した平野部について主に発掘調査を行いました。

昨年度と今年度の調査によって、本遺跡では平野部は縄文時代前期初頭、丘陵縁辺部は縄文時代前期中葉、丘陵部は縄文時代中期以降の遺構や遺物が主に見つかっています。



第2図



大矢沢野田(1)遺跡調査対象範囲図

縄文時代前期初頭の遺構と遺物

遺 構

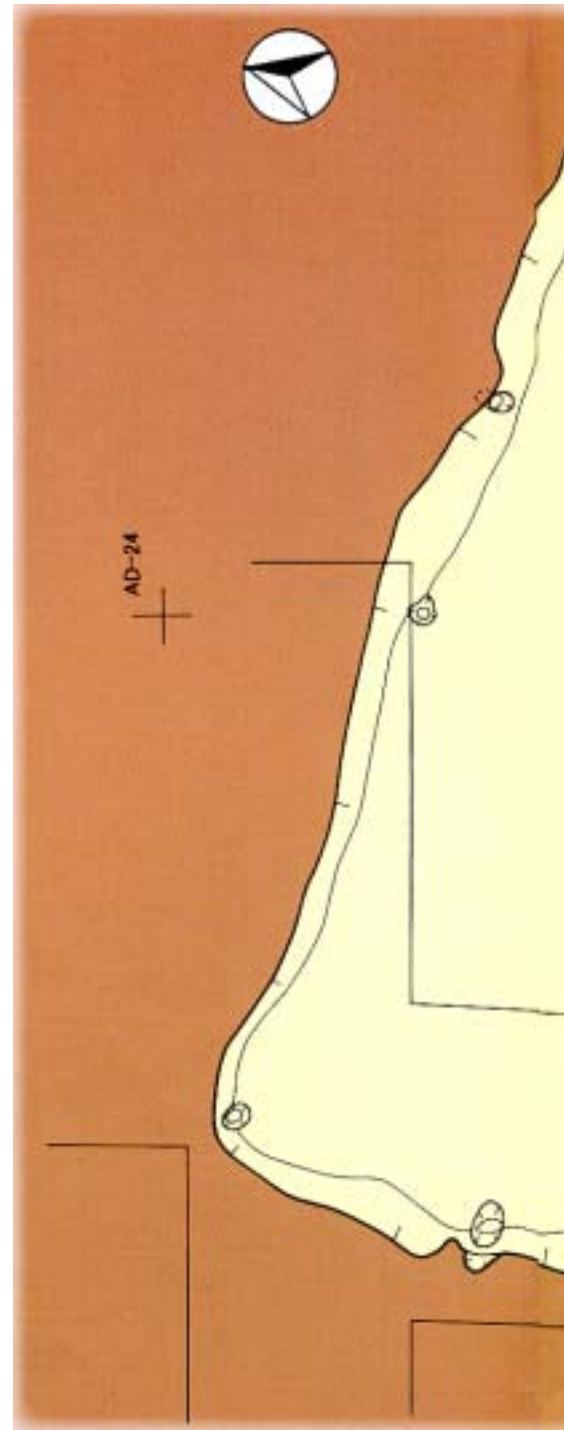
本遺跡の平野部において当委員会が調査を行った地区においては、竪穴式住居跡1軒、土坑2基、焼土遺構1基、ピット3基等の遺構が見つかっています。これらは今から約6,000年前の縄文時代前期初頭に相当するものです。

竪穴式住居跡

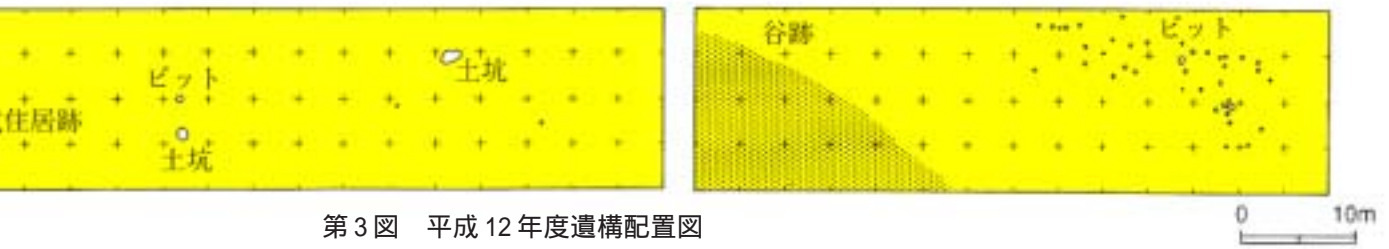


竪穴式住居跡 (W)

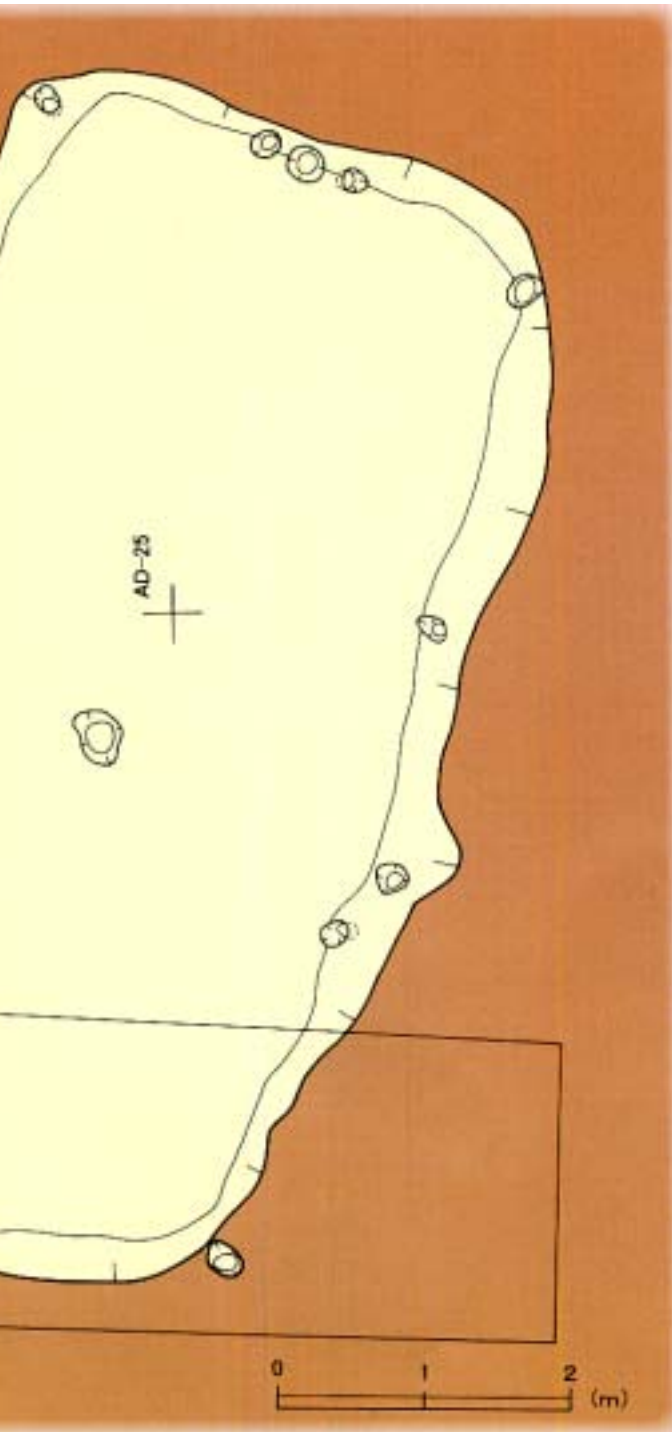
今年度の調査区の北端において、竪穴式住居跡が1軒見つかりました。昨年度実施した試掘調査で、一部分だけの確認であったため、はっきりとした形はわかりませんでした。今年度の調査で全貌が明らかとなりました。平面の形は隅丸長方形を呈し、長軸840cm×短軸420cmを測ります。壁際には、四隅を基本としてその間にほとんど等間隔で計13基のピット、床面のほぼ中央部にもピットが1基確認でき、これらは柱を立てるための穴と考えられます。炉のような火を焚いた痕跡は確認できませんでしたが、住居の南東隅において細かい炭をたくさん含んだ土が堆積する部分が確認でき、火を焚いた行為と何らかの関係を伺わせませす。住居の中から、土器の破片や磨り石、台石が出土しました。この時期の住居はこれまで青森市内では検出例がない珍しいものです。



第4図



第3図 平成12年度遺構配置図



竪穴式住居跡平面図



土坑



ピット



焼土遺構 竪穴式住居跡から30mほど南側のところで見つかりました。住居内で炉がみつからないことから、当時の人々は屋外で火を使っていたのかもしれませんが。

遺物

平野部の調査においては、今から約6,000年前の縄文時代前期初頭の土器片や石器が出土しました。

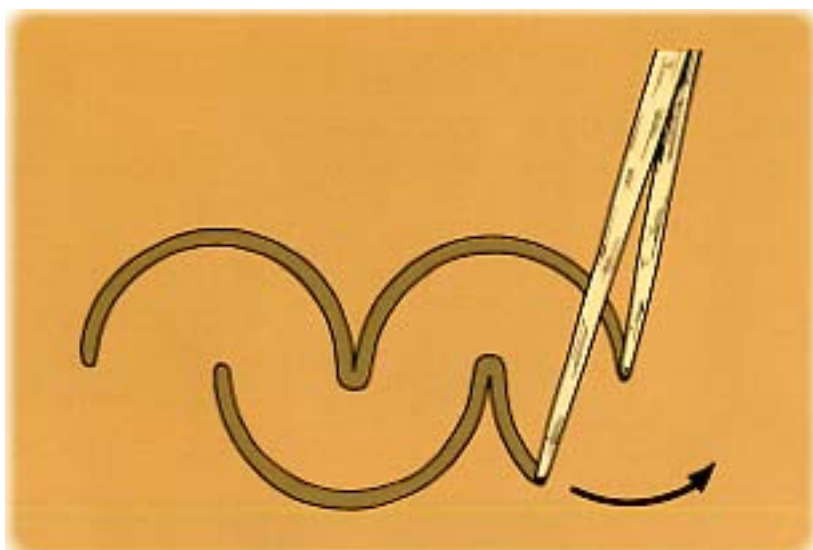
この土器は、表館式土器・早稲田6類土器と呼ばれるものです。石器は、石鏃・石槍・石筥・石匙・石錐等が出土しています。



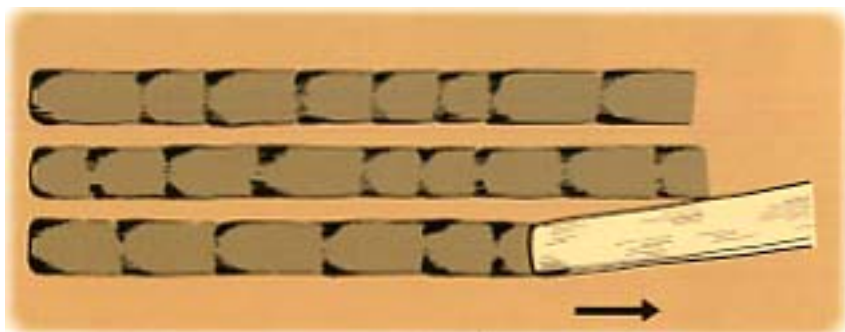
遺物出土状況 (W)

土器

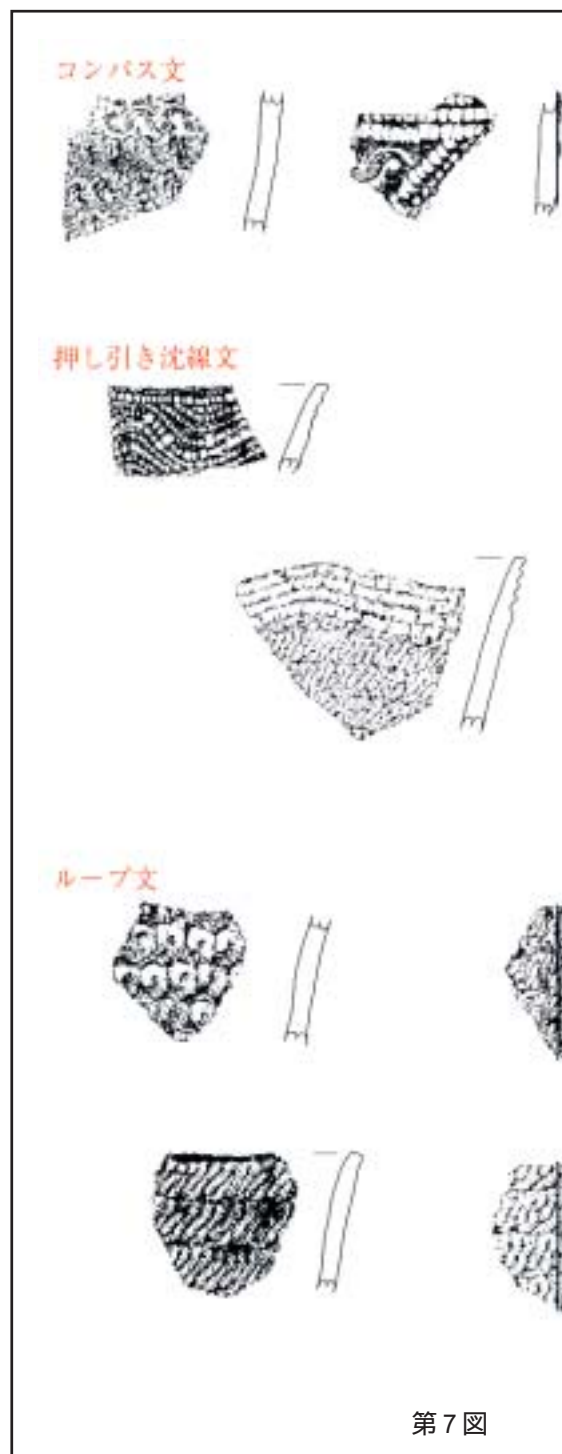
本遺跡から出土した縄文時代前期初頭の土器の特徴的な文様としては、コンパス文・押し引き沈線文・ループ文が挙げられます。コンパス文は、2本の工具をコンパスのように使って、半円を連続して描くもので、押し引き沈線文はある程度の幅を持った工具を押し当てながら引くことにより、直線状ないし幾何学的な文様を描くものです。ループ文は、先端にループ(輪)を作った縄文を転がしたことによる文様です。



第5図 コンパス文の描き方



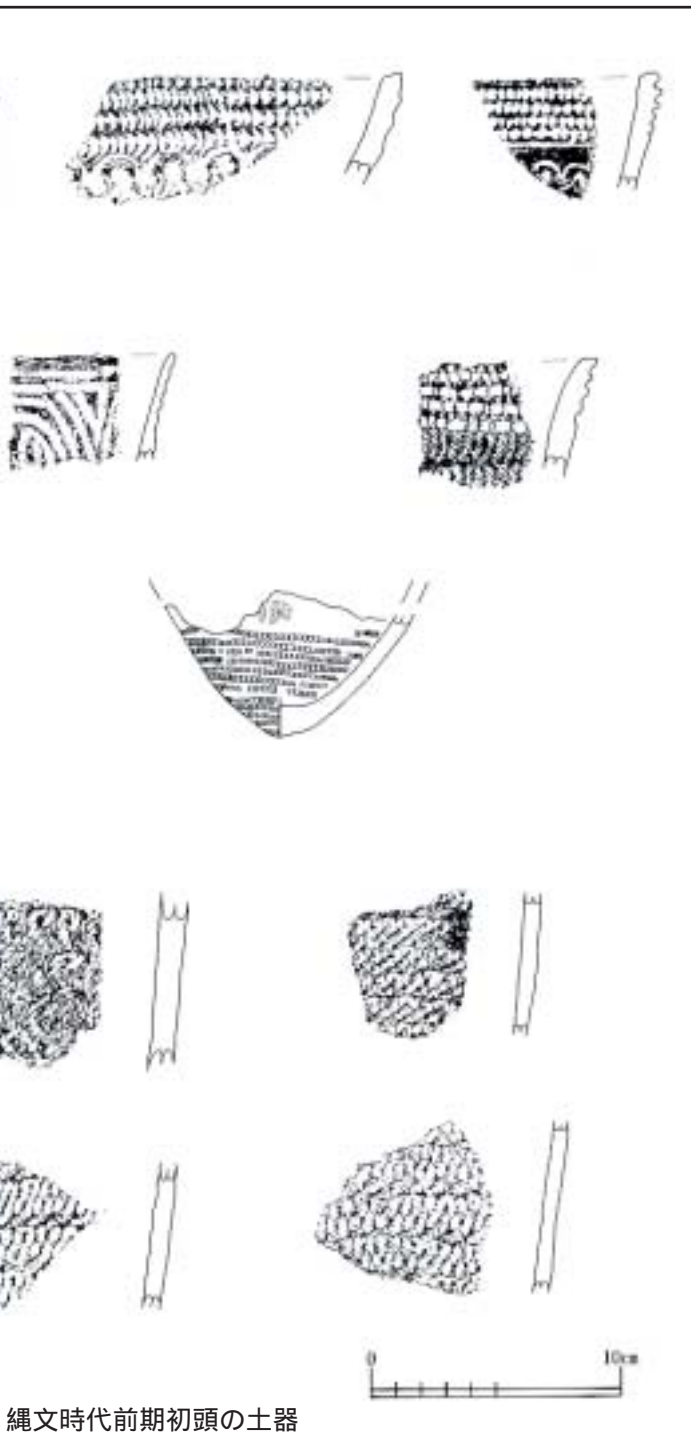
第6図 押し引き沈線文の描き方



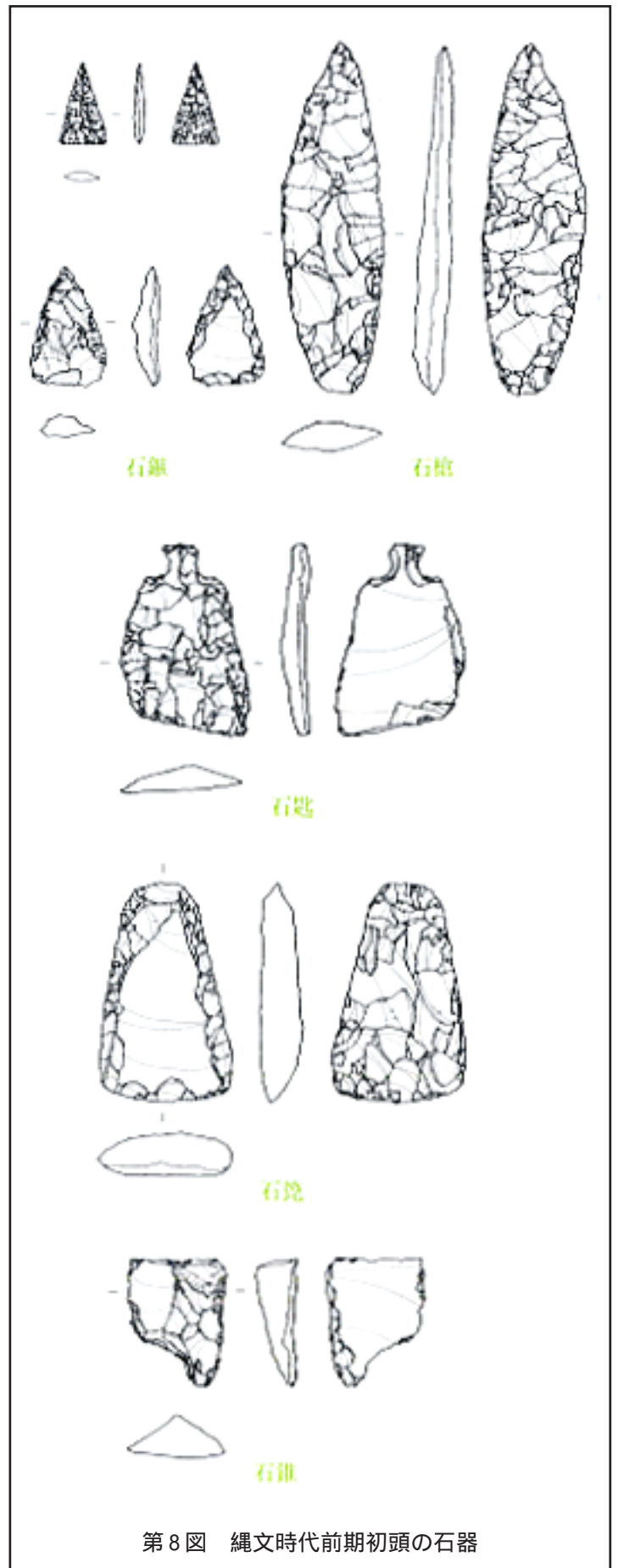
第7図

石 器

石器は、矢・槍の先端につけて用いた石鏃、皮をなめしたりするのに使った石篋、主に「切る」作業に用いた石匙・穴を穿ける作業に用いた石錐が出土しています。これらが出土した周辺においては、石器を作る際に割り取られたと考えられる石のカケラ（剥片）が出土していることから、この付近でこれらの石器が作られた可能性もあります。



縄文時代前期初頭の土器



第8図 縄文時代前期初頭の石器

縄文時代前期中葉の遺構と遺物

平野部の南側にあたる丘陵縁辺部においては、昨年度の調査の結果、住居跡や土坑などは見つかりませんが、泥炭層の下から、縄文時代前期中葉(約5,500年前)の土器や石器の捨て場が見つかりました。出土した土器や石器は、段ボール箱換算で約40箱以上に及びます。捨て場は丘陵縁辺部の緩やかな斜面を利用したものです。この捨て場付近から見つかった河川跡においても同じ時期の土器・石器が出土しており、関連性が考えられます。ここでは、捨て場から出土した土器や石器について紹介します。



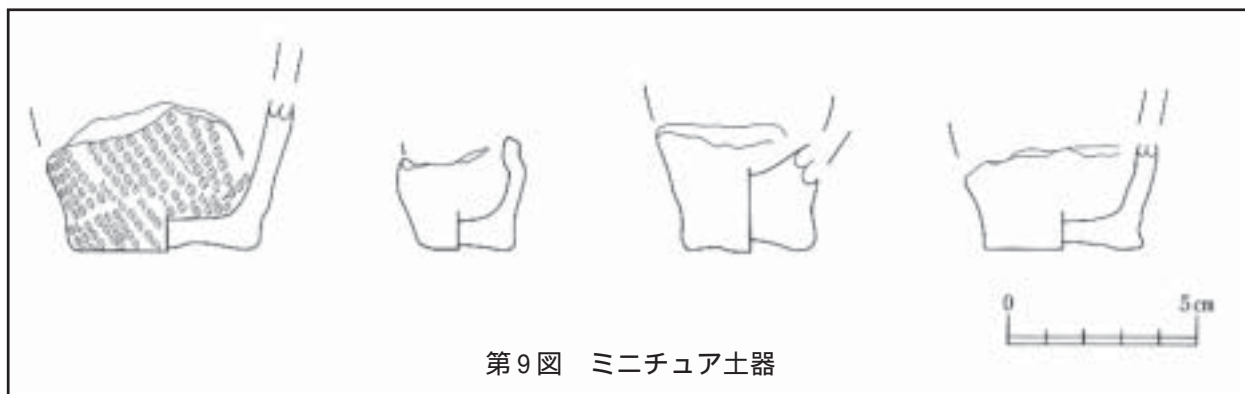
捨て場遺物出土状況(N)



捨て場土層断面(W)

土 器

捨て場から出土した土器は、縄文時代前期中葉の円筒下層a式・b式土器と呼ばれるものです。バケツのような形をしており、胴部の上に粘土紐によって盛り上がり(隆帯)をつけているものとそうでないものがあります。文様は、胴部には燃り合わせた縄文原体を横位方向に転がして付けた文様(斜縄文;単節・複節)や竹管に縄文原体を巻きつけたものを転がした文様(絡条体)がみられ、口縁部には胴部にもみられた絡条体のほか、結んだ縄文原体の玉の部分を転がしてつけた文様(結節回転文)、縄文を押し当てた文様(側面圧痕)がみられます。これらの土器は煮炊きや貯蔵用として日常的に用いられたと考えられますが、このような土器の他に極めて小さなミニチュアサイズの土器が出土しており、これはお祭り用に使われたものと考えられます。



第9図 ミニチュア土器

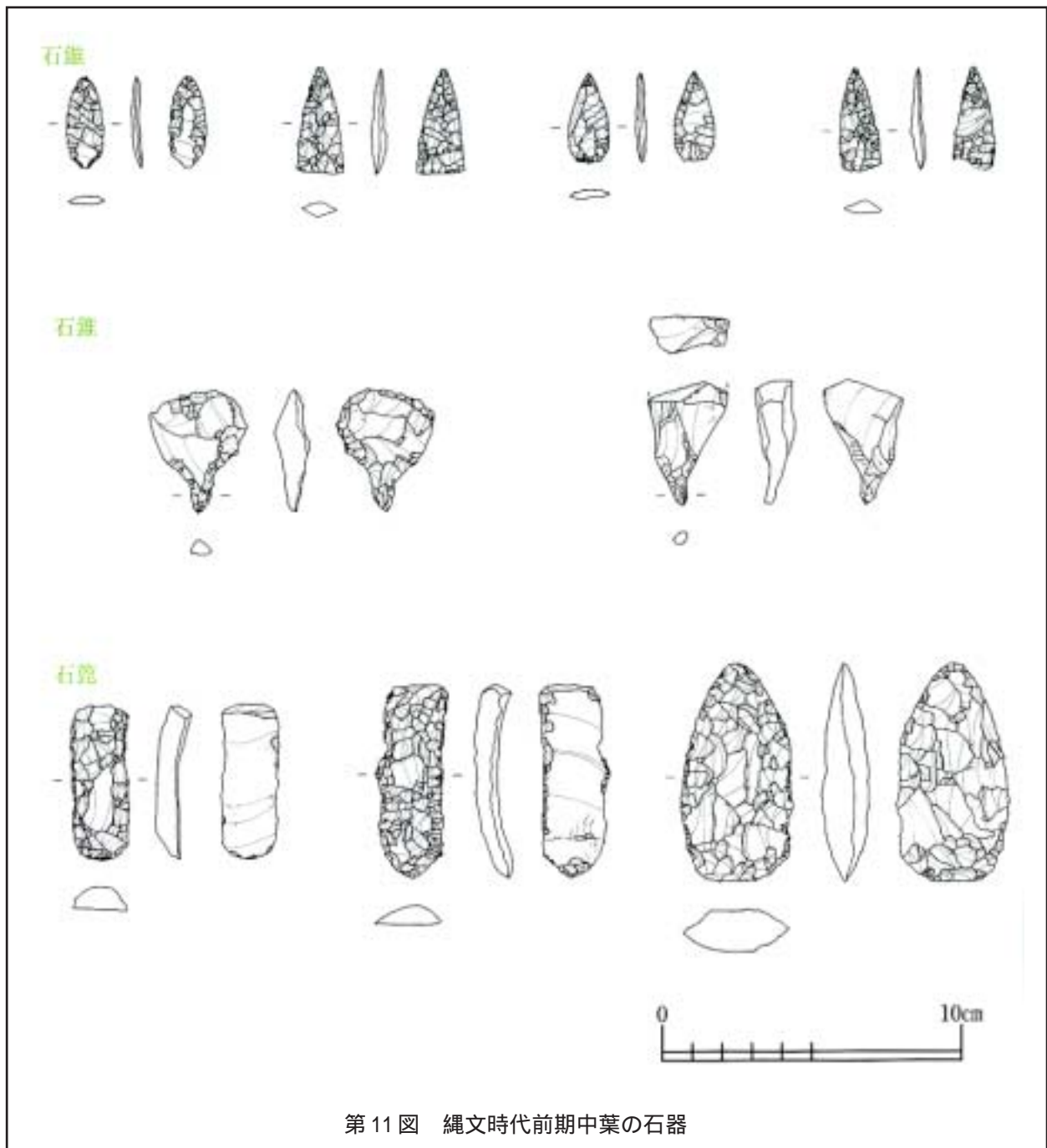


第 10 図 縄文時代前期中葉の土器

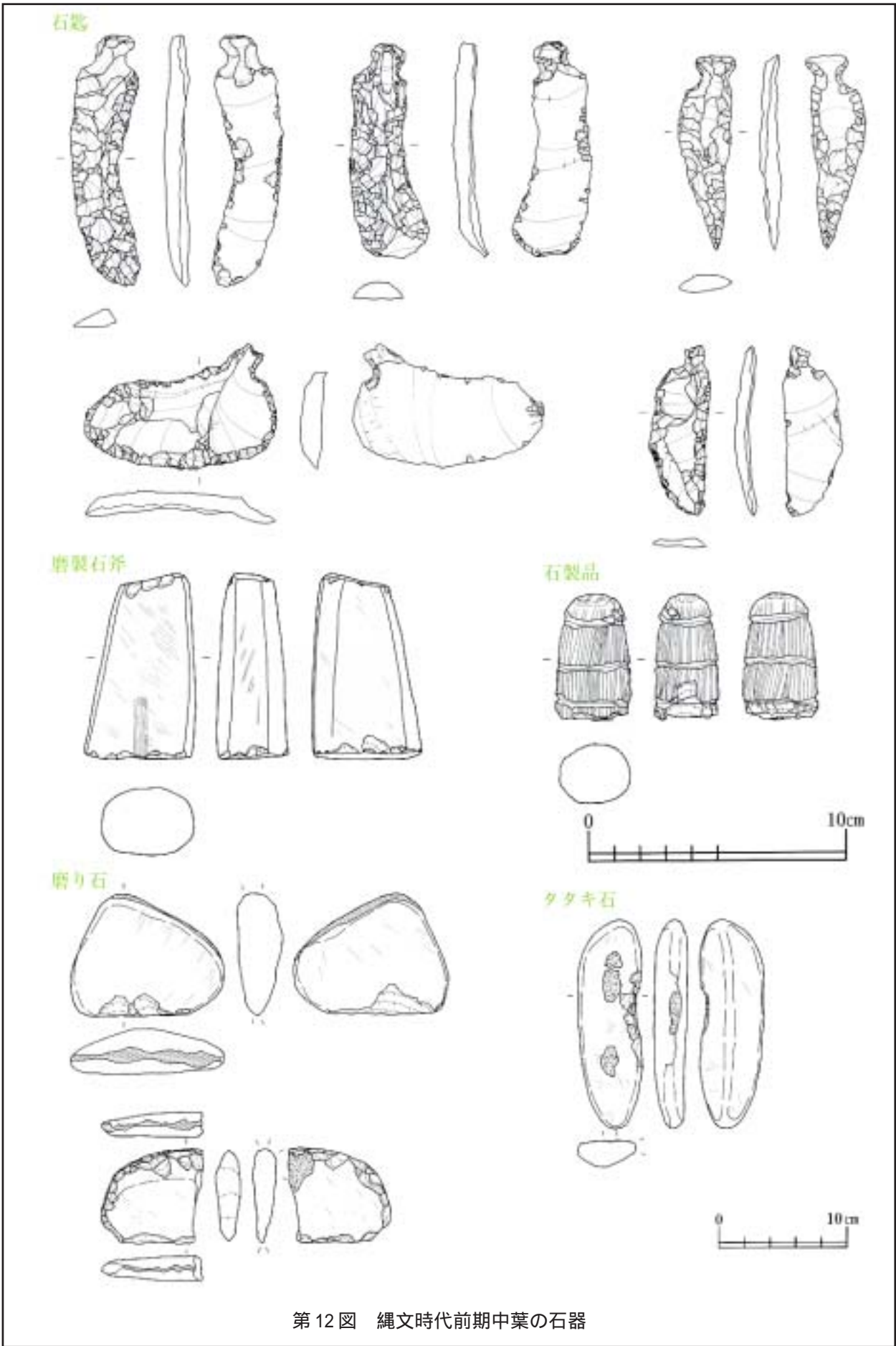
石 器

捨て場から出土した石器は、平野部でも出土した石鏃、石錐、石匙、石篋の他に、磨製石斧、磨り石、タタキ石が出土しています。磨製石斧は、木の切り出しや土を掘る際に用いられた道具で、磨り石は木の実等を磨りつぶしたりする道具、タタキ石は石を叩き割ったりする際に用いられたものと考えられます。

また、この捨て場から出土した石器の中では、石匙の出土量が占める割合が高く、石匙を使った「切る・削る」作業が多かったものと考えられます。捨て場からは、これらの日常的に使用する石器の他に、男根を模したと思われる石製品が出土しており、ミニチュア土器と同様に、何らかの祭祀行為に関連すると考えられます。



第11図 縄文時代前期中葉の石器



第12図 縄文時代前期中葉の石器

縄文時代中期以降の遺構と遺物

丘陵部においては、フラスコ状土坑1基とTピット1基が見つかりました。フラスコ状土坑は、縦断面が理科の実験で使うフラスコのような形をした土坑で主に食料の貯蔵に用いられたと考えられます。Tピットは細い溝状の形をした落とし穴と考えられるもので、このような形の穴を獣道にいくつも仕掛けることによって、獣を捕獲したと考えられます。Tピットの「T」はTrap（罾の意味）の頭文字をあらわしたものです。



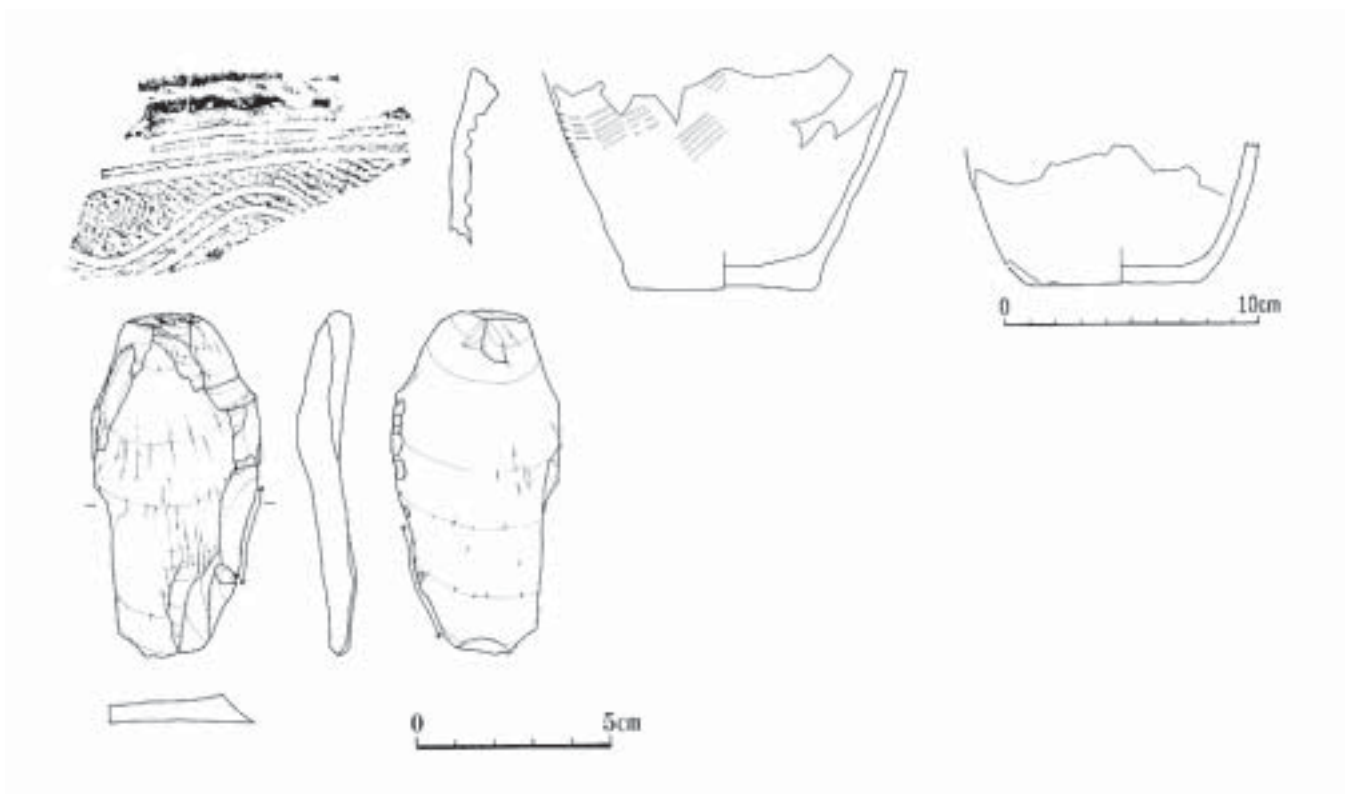
フラスコ状土坑 (S)



遺物出土状況 (N)



Tピット (S)



第13図 縄文時代中期以降の遺物

縄文海進と大矢沢野田（1）遺跡

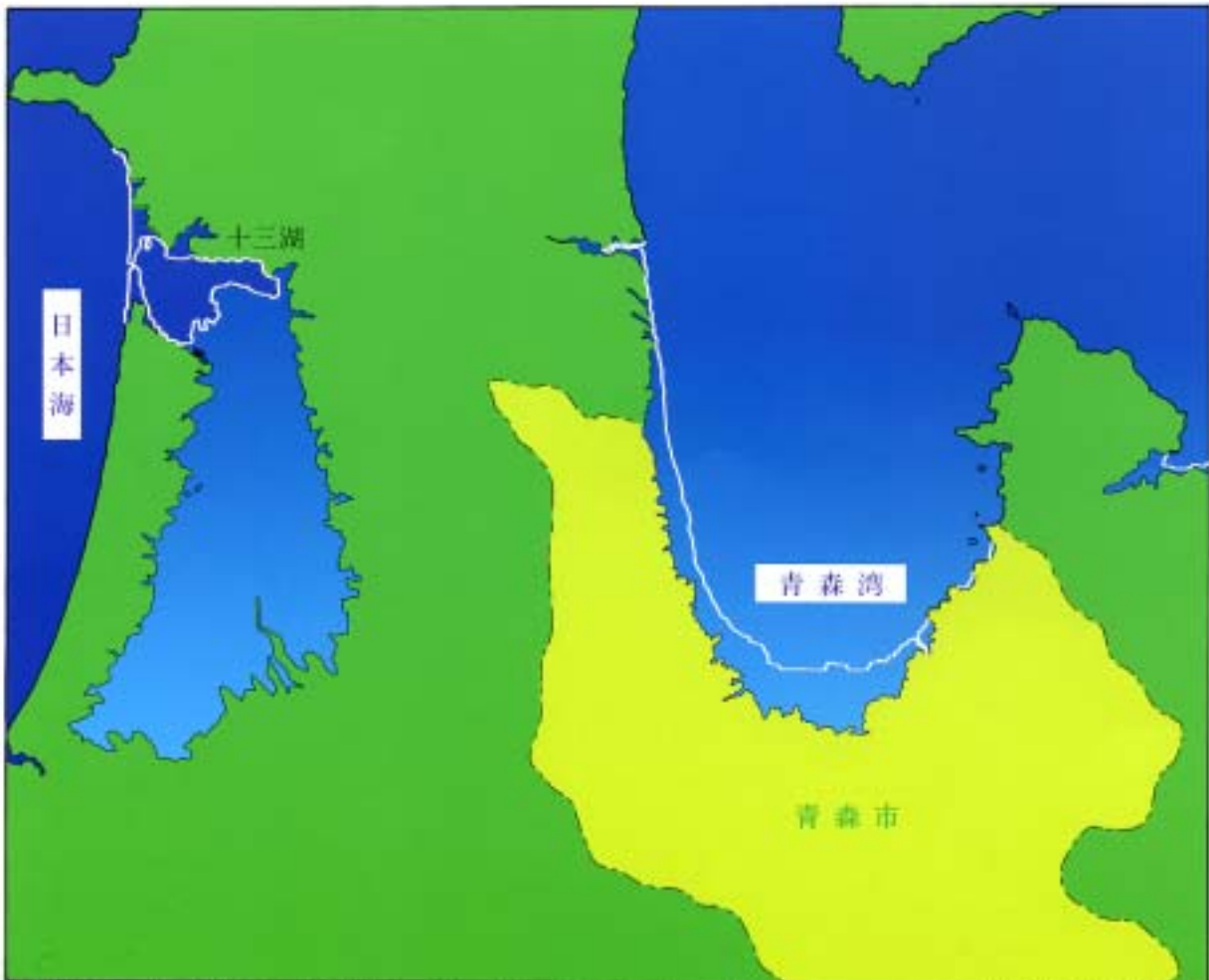
本遺跡は、北側から南側に向かって平野部・丘陵縁辺部・丘陵部というように地形的に区分することができます。これまでの調査の結果、平野部においては縄文時代前期初頭（約6,000年前；赤線）、丘陵縁辺部においては縄文時代前期中葉（約5,500年前；青線）、丘陵部においては縄文時代中期以降（約5,000年前～；黄線）の遺構・遺物が主に見つかっており、標高の低い方から高い方へ向かうにつれて、出土遺物や検出遺構の時期が新しくなっていく傾向があります。これは、本遺跡においては時期が新しくなるにつれて当時の人々の生活していた場所が標高の低い方から高い方へ移り変わっていった結果と考えられます。本遺跡の平野部から丘陵縁辺部に至る部分においては、縄文時代前期初頭及び前期中葉の遺構・遺物が見つかった層の上に、泥炭層が厚く堆積しており、調査区北端で5m以上の堆積がみられ、南側の丘陵に向かうにつれて薄くなっていく状況が確認できることから、時期によって人々の生活の場所が移り変わっていった原因として、縄文海進の影響による湿地の拡大が予想されます。



第14図 遺跡の時期（N）

縄文海進とは、縄文時代早期～前期中葉において気候が今よりも暖かったため、南極の氷が溶け海面が上昇したことによって、海岸線が現在よりも内陸へ移動したことをいいます。縄文海進は、縄文時代早期後半から前期中葉の約7,000～5,500年前において最盛期を迎えたと考えられ、このころには現在の青森市周辺地域においても、第15図のようにかなり内陸まで海が侵入していたと考えられています。

本遺跡における縄文時代の環境や植生を調べるために、平野部及び丘陵縁辺部において、縄文時代前期初頭の遺構・遺物がみつかった層の土とその上に堆積する泥炭層の土を採取し、科学的な分析を依頼したところ、縄文時代前期初頭の遺構・遺物がみつかった層からは、ササ等の比較的乾燥した土地に生育する植物の花粉や種が多く、その上層に堆積する泥炭層からは沼地に生育する水生植物の花粉や種が多くみられるという結果が出ました。このことから、縄文時代前期初頭の時期にササ等が生えて乾燥していた場所が次第に沼地のような状態に変わっていったと考えられます。このように乾燥した土地から沼地へ移り変わる現象は、縄文海進によって海岸線が徐々に内陸へ移動してくるにつれて、周辺の河川の水位も上昇していったと考えられ、それによって現在の平野部の広い範囲にわたって水が侵入していったことが原因であると想定できます。

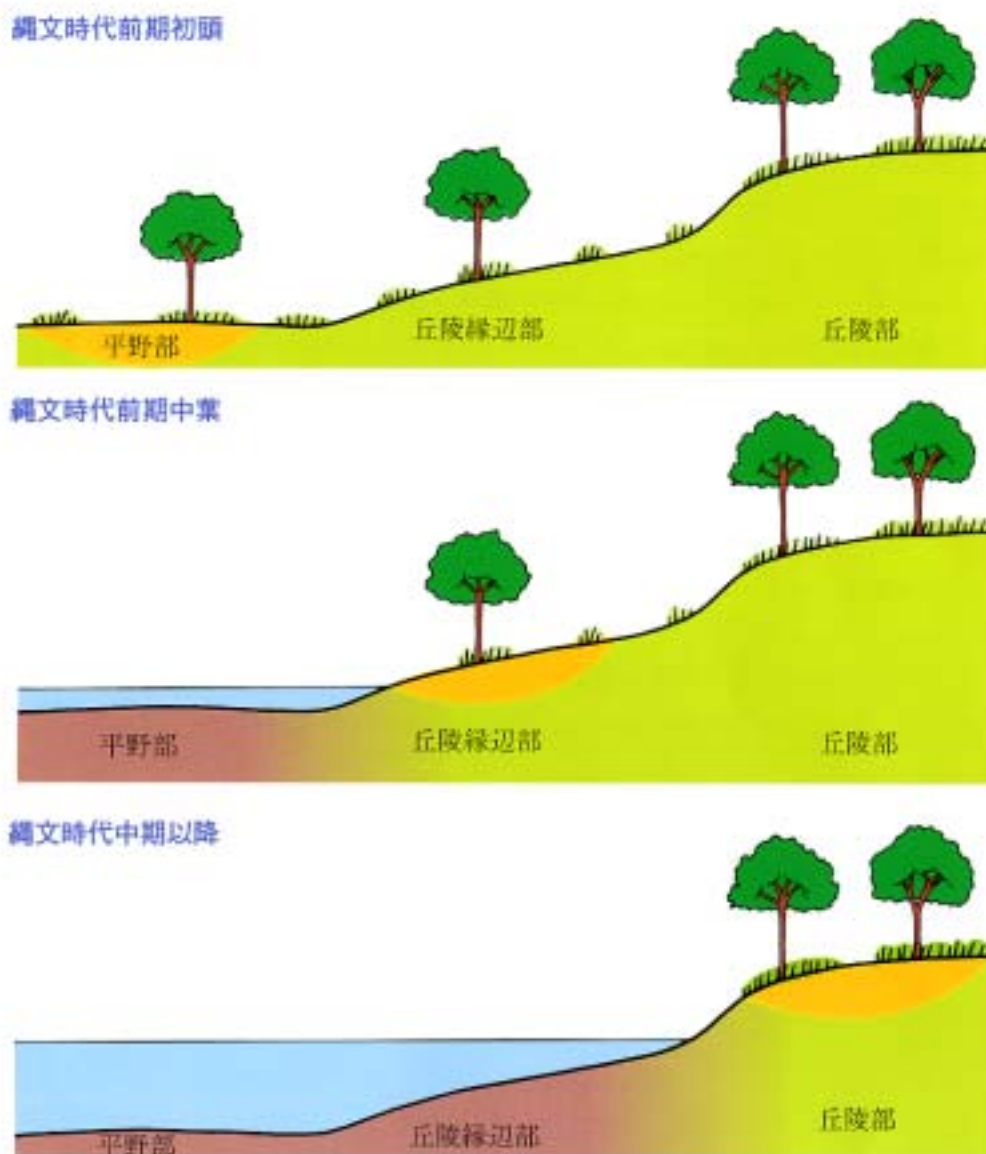


津村宏臣「GISを利用した遺跡環境評価の方法－考古学における空間分析(1)」
【動物考古学15】2000を一部改変

白線は現在の海岸線

第15図 縄文海進最盛期の青森

遺跡内の土層堆積状況と科学的な分析結果を踏まえると、本遺跡における湿地化の進行過程と土地利用は第16図のように移り変わっていったと考えられます。



第16図 本遺跡周辺の環境変化模式図

これまで青森市内で確認されている遺跡は、標高20m以上の丘陵地上に所在しているものが多く、本遺跡のように平野部から見つかった遺跡はあまり多くはありません。また、これらの丘陵地上の各遺跡において、本遺跡で見つかった竪穴式住居跡や土坑等の時期に相当する縄文時代前期初頭、捨て場の時期に相当する縄文時代前期中葉の遺構・遺物が見つかった例も余り多くはありません。本市の平野部においては、過去にいわゆる「谷地」であった可能性が高い場所が各地に存在しており、そこでは本遺跡でみられるような泥炭層が厚く堆積していると考えられます。本遺跡において泥炭層の下から縄文時代前期初頭～中葉の遺構・遺物が見つかったことを踏まえると、青森市内でこれまであまり見つかっていない縄文時代前期初頭～中葉の遺跡が未だ人知れず平野部に眠っている可能性が高いと思われます。

ま と め

大矢沢野田（1）遺跡は、青森市大矢沢字野田に所在する縄文時代前期初頭から後期までの遺跡です。

青森市教育委員会では、昨年度に引き続き、堤川広域基幹河川改修事業及び市道筒井幸畑団地線特殊改良一種特定事業に先立つ発掘調査を実施しました。

今年度の調査の結果、厚く堆積した泥炭層の下から、縄文時代前期初頭の竪穴式住居跡1軒、土坑2基を検出した他、縄文時代前期初頭の表館式土器・早稲田6類土器や石器が段ボール換算で7箱出土し、本遺跡での縄文時代前期初頭における人々の生活の様子を確認することができました。

これまで青森市においては、縄文時代前期初頭の土器が少量出土した遺跡は存在していましたが、ある程度まとまった量の土器が出土し、竪穴式住居跡等の遺構が検出された例は本遺跡が初めてであることから、本遺跡は縄文時代前期初頭の人々の生活を考える上で極めて重要な遺跡であると考えられます。また、本遺跡においては、縄文時代前期、旧石器時代に相当する埋没林や、縄文時代前期の河川跡が確認されており、当時の環境を考える上でも貴重かつ重要な資料が見つかっています。

これまで青森市においては平野部から見つかった遺跡は多くなく、また、本遺跡において厚く堆積した泥炭層の下からこれまで本市であまり出土例のない縄文時代前期初頭～前期中葉の遺構・遺物が見つかっていることから、本市の平野部においてはこの時期の遺跡がこれからもまだ発見される可能性があります。

最後となりましたが、今年度発掘調査を実施するにあたり、ご協力をいただいた委託者である青森土木事務所並びに青森市建設部道路課、及び遺跡周辺の農地所有者の方々に深く感謝の意を表する次第であります。



作業風景

報告書抄録

ふりがな	おおやさわのだかつこいちせきはつくつちょうさがいほうに							
書名	大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第58集							
編著者名	設楽政健							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 017-734-1111							
発行年月日	西暦 2001年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおやさわのだかつこいち 大矢沢野田(1)	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 おおやさわあざのだ 大矢沢字野田	02201	292	40° 47 30	140° 39 77	20000817 20001031	2,100	堤川広域基幹河川改修事業及び市道筒井幸畑団地線特殊改良一種特定事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大矢沢野田(1)	集落跡	縄文 (前期～後期)	竪穴式住居跡 土坑 焼土状遺構 ビット	1基 2基 1基 43基	縄文土器 石器 土製品	本市はこれまで例のない縄文時代前期初頭の竪穴式住居跡検出		

青森市の文化財	1	1962 『三内壺園遺跡調査概報』	第30集	1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
''	2	1965 『四ツ石遺跡調査概報』	第31集	1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
''	3	1967 『玉清水遺跡調査概報』	第32集	1997 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
''	4	1970 『三内丸山遺跡調査概報』	第33集	1997 『新町野遺跡試掘調査報告書』
''	5	1971 『野木和遺跡調査報告書』	第34集	1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
''	6	1971 『玉清水遺跡発掘調査報告書』	第35集	1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
''	7	1971 『大浦遺跡調査報告書』	第36集	1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
''	8	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』	第37集	1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』
		1979 『堂沢遺跡』	第38集	1998 『野木遺跡発掘調査報告書』
		1983 『四戸橋遺跡調査報告書』	第39集	1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983 『山野峠遺跡』	第40集	1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
''		1985 『長森遺跡発掘調査報告書』	第41集	1998 『野木遺跡発掘調査概報』
''		1986 『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	第42集	1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』
''		1987 『横内城跡発掘調査報告書』	第43集	1999 『市内遺跡詳細分布調査報告書』
''		1988 『三内丸山遺跡発掘調査報告書』	第44集	1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			第45集	1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
第16集		1991 『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	第46集	1999 『野木新町野遺跡発掘調査概報』
第17集		1992 『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	第47集	1999 『稲山遺跡発掘調査概報』
第18集		1993 『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	第48集	2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』
第19集		1993 『市内遺跡発掘調査報告書』	第49集	2000 『稲山遺跡発掘調査概報』
第20集		1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』	第50集	2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
第21集		1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	第51集	2000 『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
第22集		1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』	第52集	2000 『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
第23集		1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	第53集	2000 『市内遺跡発掘調査報告書』
第24集		1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	第54集	2001 『新町野遺跡発掘調査報告書』・野木遺跡発掘調査報告書』
第25集		1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	第55集	2001 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
第26集		1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	第56集	2001 『稲山遺跡発掘調査報告書』
第27集		1996 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	第57集	2001 『稲山遺跡発掘調査概報』
第28集		1996 『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	第58集	2001 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報』
第29集		1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』	第59集	2001 『市内遺跡発掘調査報告書』



青森市埋蔵文化財調査報告書 第58集

大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成13年3月25日
発行 青森市教育委員会
〒030-8555 青森市中央一丁目22-5
TEL 017-734-1111

印刷 東北印刷工業株式会社
〒030-0920 青森市合浦一丁目2-12
TEL 017-742-2221